

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月16日			
児童発達支援センター倉敷学園					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・一クラスで過ごす人数を分散している。 ・クラス内にカムダウンエリアが設けられている。 ・常にスペースの分けを工夫し、子どもたちが安全かつ快適に過ごせるよう配慮している。 ・手狭に感じる場合もあるが、全体を見渡すことができる広さであると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の定員数に対して一人当たりの室内スペースは比較的確保されているものの、園庭については、子どもたちが十分に走り回れる広さとは言い難い状況である。 ・全体的にスペースに余裕はなく、利用児の情緒や活動状況に応じて分散した対応が望ましい場合もあるが、職員配置の都合上、十分に対応できない場合がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	32	6	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス間で相互にヘルプに入ることができる体制が整っている。 ・クラス単位にとどまらず、事業所全体で助け合う視点を持って業務にあたっている。 ・他クラスおよび専門職と連携し、協力体制が取れている。 ・ヘルプに入る職員に対しては、子どもの特性について丁寧な情報共有を行い、安全な職員配置や子どものグルーピングを行うなど、安全面に配慮している。 ・個別に配慮が必要な子どもに対しても、対応できるよう工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より個別対応の時間を確保し、専門性を高めていくためには、国の配置基準を遵守するだけでは不十分であると感じている。 ・職員の出勤日が偏る場合もあることから、一定の余裕を持った職員配置が必要であり、子どもの特性に応じた柔軟な人員配置が求められる。 ・個別対応が必要な子どもが多い場合には、4人に1人の国の定める職員配置体制では療育の実施が困難となることがある。 ・必要な支援内容や人員配置は、子ども一人ひとりの特性によって左右される。 ・現状として職員数は十分とは言えず、ヘルプ等により助け合いながら対応しているが、継続的には不安定さを伴う状況もみられる。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	35	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各エリアにマークを設け、視覚的に分かりやすい環境となっている。 ・クラスの利用児に合わせて、必要に応じてクラス環境を調整しながら支援を行っている。 ・クラス内に個別エリアを設定するとともに、マットを敷いて集まり（小集団活動）のエリアを設けている。 ・バギー使用にも対応できる環境が整えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって取組や対応に差異がみられる。 ・経験の浅い職員に対しては、構造化に関する助言や支援が必要であると感じている。 ・事業所の設備については、老朽化が目立ってきている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の温度および湿度を定期的に確認し、適切な環境管理を行っている。 ・床や玩具、カード等については毎日消毒を実施し、感染症の流行状況に応じて消毒液の濃度を調整している。 ・アレルギー対応が必要な子どもも在籍しているため、食べこぼし等に留意し、こまめな清掃を行っている。 ・日常的に消毒を徹底し、衛生管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スヌーズレームにおいて、埃が目立つ場面が見受けられることがあり、あわせてスケジュールカードが廊下に落ちている状況が散見される。 ・全体として、清潔さの観点から改善が必要と思われる箇所が一部にみられる。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内にカムダウンエリアや、一人で過ごしたり課題に取り組んだりできる個別エリアを設けている。 ・各エリアの使用可否については、視覚的なツールを用いて分かりやすく提示している。 ・クラス内に加え、クラス外の療育室を活用することで、必要に応じて個別に部屋を使用できる体制となっている。 ・子どもの気持ちや状態に応じて、クラスの静養室も柔軟に利用している。 	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス会議や職員会議等において議題として取り上げ、振り返りを行い、次の実践につなげている。 ・目標管理面談を実施している。 ・日々の業務において、PDCAサイクルを意識した自己点検・改善を行っている。 ・日々の申し送りを徹底し、情報共有を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員については、朝礼や終礼への参加が難しい場合があり、一部のアルバイト職員を除き、十分な参加時間を確保しにくい状況がある。 ・朝礼および終礼は毎日実施しているものの、嘱託職員の出退勤時間が異なるため、報告・連絡・相談に時差が生じる場合がある。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	36	2		<ul style="list-style-type: none"> ・前年の評価を受けて、翌年の実施計画を立てているが、他機関との兼ね合いにより遂行不十分な内容がある。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理シートを基に、定期的な上司との面談を実施している。 ・日々の終礼や職員会議等において、上司が議題として積極的に取り上げている。 ・目標管理面談やアンケート、職員会議、クラス会議等、複数の媒体を通して確認を行っている。 ・毎月のクラス会議や日々の療育後に疑問点等を職員間で共有し、出された意見を実践に移した上で振り返りを行っている。 	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	36	2		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価の受審にあたり高額な費用が発生していることから、より身近な第三者委員等による評価の実施について検討する余地があると考えられる。これにより、経営面および評価内容の双方において、より実情に即した評価につながる可能性がある。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内において、救急法をはじめとする各種研修が実施されている。 ・職員の状況に応じて、研修案内等を適宜行っている。 ・研修に関する希望を募るほか、持ち回りで研修担当を担う体制を取っている。 ・職種や経験年数に応じた研修を受講できるよう、会議等を通じて周知を行っている。 <p>職員一人ひとりが、自ら講習会等に積極的に参加する姿勢を持っている。</p>	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	38	0	保護者と共有する場面を必ず設けている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	37	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のクラス会議において、多職種での話し合いを行っている。 ・クラス会議では、クラス担任、リハビリ職、管理栄養士、児童発達支援管理責任者が参加し、子どものアセスメントを行っている。 ・支援計画の実施にあたっては、個々の子どもの特性や発達段階を把握した上で、段階的に目標を設定し支援を行っている。また、保護者と支援方法を共有・相談しながら支援を進めている。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	38	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス会議において、意見交換や話し合いの場を設けている。 ・保護者要望書（ニーズシート）を改訂し、本人の意向を記入できる欄を新たに設けた。 ・支援計画作成に向けて、原案会議を実施している。 	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	36	2	クラスごとに、いつでも個別支援計画の内容を確認できるよう、誰でも閲覧可能な形でクラス内に掲示している。参観日等の日等には個人情報に留意し外す等している。	支援内容に変更があった場合の申し送りが完全でないように感じることがある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	36	2	<ul style="list-style-type: none"> ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査や太田ステージなどのツールを用いている。 ・電子連絡帳の1dayシートなどを利用し、振り返りを行う時間を作る。 ・遠城寺式や太田ステージがそれに当たるのでしょうか？外部機関がPEPをとっている。 	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	38	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・必要であれば、複数クラス合同で活動している。 ・月案を他のクラスと情報共有しながら立案している。 ・具体的にはわかりません。 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	37	1	改善が必要な場合には、職員間で声を掛け合いながら内容の見直しを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	37	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	35	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝8時30分より朝礼を実施している。 ・勤務形態等の理由により朝礼に参加しにくい職員については、記載事項の確認を行うなど、別の方法で情報共有を行っている。 ・朝礼は毎日実施しており、囁託職員については、朝礼ノートを確認した上で現場に入っている。 ・事前にサポートに入る職員に対し、活動の流れを丁寧に伝達している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務開始時間の関係上、出勤時にはすでに子どもが登園している場合が多く、スケジュールの確認が十分に行えない日がある。 ・一定の対応は行えているものの、9時には前庭で待機している利用者も多く、9時出勤の職員同士での情報共有や事前の打ち合わせの時間を十分に確保しにくい状況がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日16時より終礼を実施している。 ・勤務体制の都合により終礼への参加が難しい職員については、クラスノート等を活用して周知・情報共有を行っている。 ・業務の都合上、クラスの振り返りに参加できない職員についても、個別に報告や相談ができる時間を設けるなどの配慮がなされている。 ・終礼では、当日のけがの有無や感染症の状況、翌日の予定等について確認を行っている。 	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	37	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、ケアコラボを活用して、その日の活動の様子を記録している。 ・日々の連絡帳と記録を連携させながら、情報共有に取り組んでいる。 ・1dayシートを活用し、支援内容の振り返りを行っている。 	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	37	1	毎月のクラス会議にて実践し、振り返る機会を設けている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	38	0	クラス担任も出席する事で、より正確に情報共有ができています。		

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	37	1	・就学・就園前には、関係機関との引き継ぎを行っている。 ・その他の連携については、医療連携や保健師との連携が必要な場合に限り実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	34	4		併行通園する場合、園同士のやりとりがもう少し増えたいいなと感じる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	38	0		就学前に引き継ぎを行っていても、転勤等により情報が十分に共有されない場合があることから、年度が替わるタイミングで改めて話し合いの場を設けることについて検討する余地があると考えられる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	26	2	・倉敷市内のセンター部会等を通じて意見交換や情報共有の場を設け、センター内で共通理解を図りながら実践につなげている ・近隣の児童発達支援事業所へ案内を行い、ペアレント	連携とまでは行かない
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	28	0	職種や経験年数に合わせた外部研修へ出られる体制を整えている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	26	2		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	34	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	28	10	・クリスマス会等の行事において、くりのおうち保育園の子どもたちと同じ空間で過ごす機会が設けられている。 ・朝の会の実施や行事への参加を通じて、保育園およびきりのおうち子どもたちと同じ空間で過ごす機会を持つことができている。 ・一方で、継続的・密接な交流の機会は多くない。	・行事や花育等において同じ場で活動する機会はあるものの、継続的・相互的な交流にまでは至っていない状況が見受けられる。 ・学区のこども園との交流については計画を立てていたものの、諸般の事情により現在は延期となっている。 ・遠足等の行事における日程調整上の重なりを除き、計画的な活動として法人外の地域園と交流する機会は限定的である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	38	0	・保護者に分かりやすく、簡潔に子どもの様子を伝えている。 ・家庭での様子と園での様子を丁寧に共有し、信頼関係の構築に努めている。 ・支援内容については、保護者と相談しながら決定している。	職員の経験などから差がある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	37	1		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	38	0	職員も説明の内容を理解する。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	37	1		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	37	1		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	38	0	・クラス職員に限らず、児童発達支援管理責任者や専門職とも情報を共有し、共通理解のもと実践が行われるよう、ケアコラボ等のツールを活用している。 ・各クラスにおいて、子どもの状況や必要性に応じた対応を行っている。 ・保護者がどのような点に困り感を抱いているのかを的確に把握し、分かりやすく伝えられるよう努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	36	2		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	38	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	37	1		きらりに比べるとSNS発信等は少ないと思う
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	38	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	38	0	・子ども一人ひとりに合った支援方法を検討し、職員間で意識を共有しながら実践している。 ・分かりやすい言葉を用いた関わりを心がけている。	

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	37	1	栗坂フェスティバルの開催、子どもと遊ぶボランティア募集等を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	38	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	38	0	毎月避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	38	0	入園説明会の際に事前に詳しく話を聞く機会を設けている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	38	0	厨房朝礼時に リストをみながら口頭で指示があります。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	38	0		プール等の破損している部分を修繕する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	37	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	37	1	・ 毎日終礼でヒヤリハット、事故報告を行い、全職員に周知している。 ・ 終礼中にヒヤリや事故報告を上げるようにし、報告漏れが無いよう工夫している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	37	1	全職員必須研修がある。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	37	1		